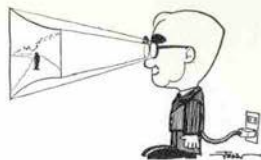


●ふらっしゅ●ぱっく●

●またも●

ブロードウェイ劇場ばなし

淀川 長治 (映画評論家)



ブロードウェイの劇場には(ヘレン・ヘイス劇場)(エセル・バリモア劇場)あるいはアルフレッド・ラントとリン・フオンターン夫妻の名をとった(ラント・フオンターン劇場)などがある。日本の芝居小屋は歌舞伎座、明治座、国立劇場とその名には肌ざわりがうすい。菊五郎劇場とかサダンジ座だとかウタエモン座なんていうのもあってもいいのじゃないかと思うのだが。

そのブロードウェイの(ラント・フオンターン劇場)でデューク・エリントンのヒット・ナムバー三十六曲を聞かせる『ソフィステイケイテッド・レデイス』を見た。このタイトル題名も一九三三年のデュークのヒット曲。ハーレムのコットン・クラブから始まったこの舞台はジャズ・ファンにはたまらなかったであろう。六月にマンハッタンで見た六つの舞台のなかでこれぞ最高。



この舞台はアメリカそのものというよりもマンハッタンそのものが輝いた。ソフィステイケイテッドとは都会的に洗練せんれんされたとか、いきなりとかという意味があるのだがこれは昭和初めにノエル・カワードがロンドンからマンハッタンに持ってきた言葉でイギリスのガートルード・ラウレンスやビアトリクス・リリィ……そしてアメリカ

のアナ・クレアなどを指した言葉でもあった。アメリカのおちさんたちにソフィステイケイテッドの意味を……ひとくちで……と質問してみたところケイリー・グラントとステイヴ・マックイーンを二人ならべたときのケイリー・グラントだねえと答えたのは面白かった。

舞台はヒット・ナムバーとともに盛んにタツプ・ダンスがとびだし、グレゴリー・ハインズとジュデイス・ジャミソン(写真の二人)のダンスのすばらしさ……ここはマンハッタン……ここはブロードウェイ……その感覚あふらせた。ジャミソンはアルビン・アイリイ舞踊団にいたダンサーだ。

ブロードウェイにまたもタツプがカムバックした。マジステティック劇場で上演の「四十二番街」はまさにそのタツプの洪水。第一幕から五十人の男女ダンサーがとび出して五十人のタツプ・リズム。これも圧巻あきざだった。

ところがハーレムのコットン・クラブから始まってブロードウェイでビッグ・ヒットのデュークの伝記ミュージカルは全景これニューヨーク美術。黒と白をカラー・デザインのアクセントにし登場する黒人たちの衣服もこれまた見事なるマンハッタン・スタイル。ところが「四十二番街」はこの題名こそブロードウェイ。この題名こそタイムズ・スクエアの劇場街であるのだが、開幕の一瞬から舞台は白とピンク。登場のダンサーたちはブロードのショールト・ヘアにピンクとブルウのスポーティな衣服。見るからにカリフォルニア・スタイル、見るからにハリウッド・スタイル。すでにお気づきの「四十二番街」こ



そは一九三三年ウオーナー・ブラザーズがワーナー・バクスター、ビープ・ダニエルズ、ディック・パウエル、ジンジャー・ロジャース、ルビー・キラード出演、ロイド・ベーン監督のダンシング・ミュージカル映画の劇化。ブロードウェイの舞台は（感覚）をひらめかすことで実にシャープであるのだ。

×

一夜八時開幕。ブロードウェイ三十三劇場は午後七時から、いっせいに活気をあふらせてくる。オフ・ブロードウェイにも十六の劇場、あわせてマンハッタン四十九の劇場が夜ともなればいっせいにネオンを輝かすのだから、このころふんはあふれ押しかける入場者の顔にもキキと輝く。

ところで面白いことに、ところどころ



ろの劇場の前がとくにひとだかりなのだ。これは劇場前で大道芸人が自慢芸を見せているからである。ある男はヴァイオリン。またある二人組の男女はタップ・ダンス。あるいは一人の男がパントマイム。この連中は実は学生や芸人の若手であって、こうやって芸を見せているうちに誰かが（興行主か演出家かその他いろいろ）自分たちを発見して拾ってくればせぬかと実は芸人デモでもあるのであった。

それで私は六月十一日マーティン・ベック劇場へ出かけるとき、この日はリズの「小狐たち」を見るのでやや早いめに七時にその劇場へ。まだ陽は沈んでいない。あたりは明るい。するとその劇場の横で一人の男がバグ・パイプを吹いていた。アイリッシュカスコットランド人なのか。私はこの革笛が好きなのだ。思わず駆けより近づく。と数人の前でその背の高い男がビビヤラビビヒヤラと演奏中。私はポケットさぐると二十五セント二個。思わずそれ掴み「リクエスト！」と言っちゃった。するとその男よこんで「OK!」。そこで私はアイランド民謡（ウェアリング・オブ・ザ・グリーン）をたのむ。この男、いさみよるこび、このおくにの名曲を演奏しだした。私は思わず足踏み手びようし。私たちをとりまいた見物人、思わず大拍手。：：マンハッタンブロードウェイで：：まあ私はなんと……こんな体験をノ

てつ かく さん ほう
 散 歩

(9)

ワン・パターン

細川 董 (哲学者・文とえ)



細川董・ほそかわただす
 京都大学哲学科卒、元大
 阪樟蔭女子大学教授、F
 M大阪「夜の美術散歩」
 DJ、洋画家としても活
 躍中。目下、アンティ
 ク人形に凝っている。

入註ノ語は哲。字体はす
 べて高田竹山監修「五体
 字類」による。

最近テレビで、お笑いの登竜門のようになっている番組で、プロアマ入りみだれて挑戦者が登場し、グランプリにいどむのだが、挑戦者の万才がほんのサーヴィス精神からちよつと下ネタを付け加えた。審査員の一人は、そこをとらえて、「下ネタはなかった方がさわやかだった!」と批評した。私は、その批評を聞いたとたん首筋が寒くなったのである。古い! 古い!

自由諸国の一員として、なんて大きなことを最近の日本はいっているが、日本では自由は死んでいる。民主主義の根本精神、すなわち個人主義と自由主義はどこへいつてしまったのか? そんなもの、日本の大衆意識の中には全くないのだ。私は、自由主義諸国の雄として再軍備の拡充をせまるアメリカの日本へのカイカブリが、こっけいに思えておかしくなってきた。

戦後、教育も何もかもアメリカナイズされ、アメリカに追いつき追い越せと、無茶苦茶をやってきたが、日本の世の中に、せめて大衆芸能の世界だけでも江戸の小咄に見られるような自由が生きているのかと思っていたが、どっこい、自由のための反骨の殉教者精神は死にたえ、「下ネタをさけて通れば、それでさわやか!」という社会に尾をふる安易な儒教的精神が庶民の自由な笑いの世界でも横行しているのかと思うと、日本の大衆意識

のワンパターンのまづしさ、貧困さ、わびしさが、五十五過ぎまで西洋哲学にどっぷりつかって来た私を戦りつさせたのだ。もちろん、今の万才ブームのピンボケの理由も、私にはお蔭でハッキリしたのである。

どこか狂っている、と思っていたブームという幽霊の実体がつかめたような気もしたので。大衆芸能の世界は大切なものから逃けているのだ。人間に一番大切な個人と自由、から逃けているのだ。日本では昔から今の今まで個人主義と自由主義はずつとタブーなのだ。

大きな声でそれをいえないのだ。それを言ったのではマスコミで飯が食えないのだ。だから逃げてごまかしているのである。ズルイ!ズルイ!そればかりではない。私の首筋が寒くなり戦りつを覚えたのは、かつて第二次大戦前夜レヴューの踊り子の脚線美の露出がだんだん禁ぜられ、モンペ姿にまで追いやられ、ついに戦争にまで突入して行つた記憶をよびさまたれたからでもある。

セクシャルと下ネタとは日本では、お上の御法度だったのだ。昭和の今も事情は変わっていなかったのだ。個人の尊厳さと自由のためならいけにえになることも辞さない反骨、反社会という気骨のない鳥合の衆に、アメリカは自由諸国の一員として、一体何を期待しようというのか?確かに、上品な(?)日本人は、人前で下ネタをさ



けて通って来た。そのために立派で上品で上等な人間の評価を得た。しかし、真実は、下ネタを上品に表現する事に、極端に下手になり下ってしまったのだ。精神的欠陥車となってしまったのである。

ああ、こんなワンパターンな精神的貧困さでは孔子の時代ならいざ知らず自由な男女交際が、日常生活という国際社会でおつき合ひしてゆくには、大変なことだとかねがね私は案じていたのである。不安は的中した。

最近、立派な会社社長の息子がバリでオランダ娘にふられた途端、殺人者と化し、人食い人種に早変わりしたという。私は、大衆芸能こそ正面からセックスに取っくむべきだと思う。逃げてはいけない。

セックスの核心にとつくんだ上で、なおかつそこから人生の笑いとペーソスを、さわやかに表現する法を模索

すべきだと思う。特に、何千万人に影響を与えるテレビを媒体とする大衆芸能では、特にそうである。男女交際のエチケットを、下ネタを題材に真げんに啓蒙すべきだ。小さい子供は、大衆芸能を通じてやがて来る男女交際の大人の世界のルールの存在を知るのだ。

外国だって、大人達は古くさいが、特に古くさい日本の大人達が「セックスをさけて通れば上品だ」なんてワンパターンな考えを持つ限り、今後とも、中学三年の女の子が、恋のうらみから同級生の男の子を早朝学校で待ちうけて、さし殺すなんて事件も後をたないだろう。

哲学者のぐちはこの辺で止めて、セックスが何であるかを、哲学的に申し開き致そうと存ずる。

これぞ、今月のハイライトなるぞよ。実はまず先月号では、完全な人間像は男女両性。女は男の欠如態。男は女の欠如態。これがプラトンの哲学だと、吾輩がお話したのを覚えていらっしゃいますかな？

吾輩は、男も女も単独では欠陥車同然だと結論致しましたぞ。お分りかな？下ネタをさけてはいけない理由。

男も女も、異性とお付合ひし、合致して一体をなすことが、一人でいるよりは哲学的に、いってより完全な人間への道を歩んでいることになるということ。

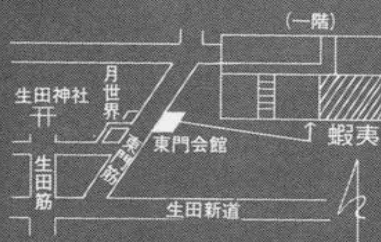
キスしたり、抱き合ったり、セックスしたり、日本人大衆が意識的に人前でさけて通ろうとして来た男女の関係は、異性と二人になる努力を何もせず、人間が一人でいる状態より、人間としてより完全な状態だという認識が、根本的に必要なんですな。セックスは別にやらなくてもいい、動物的な特別に下品な行為だ、なんて考えは全く間違ひのコンコンチキも甚だしい。そんな風で、低次元にセックスをとらえるから、さけて通ってさわやかだなんていわねばならないのだ。

これは、セックスを通じて完全な人間になれなかった、不幸な欠陥車の泣き言なんですぞ。

実は「理想のセックスこそ、人間関係の模範だ」と某哲学者はいつているのですぞ。



毛がにまで10周年を迎えました。



- 北海道帯広市西2条9丁目 オリエンタル観光株直営
- 毛がに 6000~8000円 ルイベ (シャケのサシミ) 1500円 ビール 600円 お酒 600円 十勝ワイン 600円 ボトル(オールド) 5800円 蝦夷鍋・十勝鍋 1500円

- 北海道一品料理
- 帆立貝 (ほたてがい) 1000円
- 北寄貝 (ほっきがい) 1000円
- 氷下貝 (こまい) 600円
- 柳葉貝 (ししゃも) 600円
- じゃがいものバター焼き 500円



北海道郷土料理

蝦夷

神戸市中央区中山手通1丁目4-13

生田東門筋東門会館ビル1階奥

TEL (078) 331-7770

ぴっと・いん



★いつまでも健康であるために「サントマト」へ
 拡張工事をしていたナチュ
 ユラルハウス神戸店が7月
 3日に新装オープン、漢方
 薬・自然食レストラン・美
 容室を加えて「健康ひろば」
 としてスタートした。新し



いま、健康を食べよう

く出来た自然食レストラン
 は「サントマト」、永年自然
 食の研究に携わっている山
 本祥園先生がメニューから
 料理法に至るまで指導をし
 て、より自然により健康に
 をモットーに取り組んでい
 る。食養という言葉に表現
 されるように正しい食事は
 は健康の基礎であるが、わ
 が国古来の健康食である玄

米や豆腐などを取り入れて
 新しい感覚のメニューが作
 られている。店の雰囲気も
 清潔で明るく若者向け、自
 然のよさを味わってみてく
 ださい。

△メニュー自然ジュース400
 円、豆腐グラタン530円、玄米
 定食(日替わり)680円
 10AM~8PM 無休
 元町通2丁目 電話3921-3909

★国際的な店にと

ビジー・ビーのペコ

最も神戸らしい店のひと
 つ、生田神社西のスナック
 「ビジー・ビー」の人気マ



ビジー・ビーで歌う沖山秀子

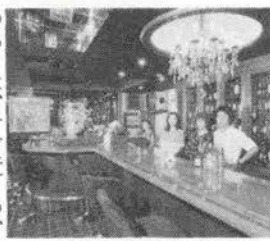
マ富美子さんが引退、代わ
 って娘さんのペコちゃんこ
 と房子さんが、その「伝統」
 を引き継いで張り切ってい

る。ペコちゃんは、今まで
 も同店でのピアノの弾き語
 りとしておなじみで「母の
 跡を継いで国際的な店を目
 指して頑張ります」と「新
 ママ」の弁。このビジー・
 ビーで、去る7月4日、ペ
 コちゃんとは関西学院大学
 時代の同級生の沖山秀子さ
 んをゲストにライブが開か
 れた。かつての仲間たちが
 集まり、沖山さんも大いに
 ノッて歌いまくった。

★麻雀を楽しんだあとは

ラウンジで今宵の酔いを

麻雀サロンよさは、V
 IPの気分でプレイが楽し
 める豪華なサロン。プレイ



ムードある「らうんじよさの」

のあとは、すぐ近くの、ら
 うんじ「よさの」へ。アダ
 ルトなムードが低料金でO
 K。弾き語りも入り、素敵
 な酔いを約束してくれる。

△らうんじよさのV

三宮東門筋森本ガス西入る

電話3911-5838

△麻雀サロンよさのV

生田神社南ゼウスタウンビル6F
 電話3311-3670

●神戸うまいもん
 とドリンキング

北海道郷土料理

蝦夷

中央区中山手通1-4-13
 東門筋東門会館ビルF
 電話3311-7770

△蝦夷からの手紙▽

初秋の候、
 みなさまには、お変わり
 のないことと存じます。
 さて、北海道郷土料理の
 店としてご愛顧をいただ
 いております。蝦夷は、こ
 の秋で10周年を迎えるこ
 とができました。本当に
 有難うございました。



10年目を一つの節目に、
 今後とも、ますます精進
 をして行くつもりでござ
 います。何卒倍りのお引
 き立てを賜りますよう
 に宜敷くお願い申しあげ
 ます。

なお、ささやかではござ
 いますが、9月24日から
 10月3日まで感謝デー
 とさせていただきます。
 みなさまの来店を心よ
 りお待ちしております

SPECIAL MESSAGE

神戸百貨会だより



腕前を披露する畑尾宇多子先生(右)

★リザ・サロン神戸本店
大々的に改装オープン！
7月19日から改装工事中のセンタープラザ3F、リザ・サロン神戸本店が8月22日にオープン。

今回の改装のポイントとしては、ヨーロッパからの輸入高級ファッションを集めたヨーロッパフロアと、ワールドの天然素材商品だけで展開するビュアコーナー、そしてゆっくり寛いでいただけるビッグルーム(貴賓室)が誕生した。

売場面積も広くなり、今までの重厚でシックでリッチな感じの上に、明るく親しみやすい雰囲気なをプラス



新しくなるリザ・サロン神戸店

22日のオープン

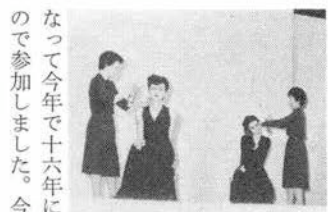
ングイベントには、リザ・サロンのイメーজレディの南田洋子さんが一日店長として来店。22、30日までのオープニングキャンペーン中には、ワインの試飲会や大型VTRによるヨーロッパの放映、そして、期間中お買い上げのお客様にはステキなプレゼントも用意されている。

★十六年の節目に豪華なヘアショーへ参加

三宮神社前のエリザベス美容室の畑尾宇多子さんが7月13日大阪毎日ホールで開催されたコミテ・クレア・トル・コアフェール(ムラハシ英子会長)主催のヘアショーに参加した。

「ムラハシ英子とそのグループの躍進」というテーマのもとに関西で活躍する15名のヘアデザイナーが出演し、各々熟練した腕前を披露した。

畑尾さんは、「美容師に



腕前を披露する畑尾宇多子先生(右)

なっており、今年で十六年になるので参加しました。今のモードの真似でなくオリジナル리티を大切にして創造したデザインです」と語り、ショートヘアをタイトにするつくりとまとめ羽飾りをつけるセットをBGMが流れる舞台で見せた。一時間半のショーは盛況で華麗なウエディングで幕を閉じた。

★ハベニーVが新しく生まれ変わります
国際会館1階のブティックベニーが新しい店作りを目指して改装。8月17日にオープンした。

今までは婦人服だけを取り扱ってきたが、これからは毛皮のカジュアル部門を充実させ、現代生活にマッチしたファッションを追求し、トータルコーディネイトが楽しめる店というのが課題だそう。

「毛皮に対する理解を深めファッショントのドッキングを知ってほしい。そしてパリ感覚を全面に出してい

211777 担当高柴まゆ。

● ショップトビックス

★大丸前の呉服のみよしでは、9月11、12、13日に甲陽園の播半で、創業60周年記念「大創業展」を開催いたします。

★中川衣裳店は、9月6日に、オリエンタルホテルで「花嫁衣裳展示会」を開きます。

★つるや衣裳店は、8月30日に楠公会館で「婚礼衣裳展示会」を開きます。

★田崎真珠が「誰よりも輝いていたい」をテーマに、「8タサキ新作コレクション」を開きます。9月9日、11日まで大阪ロイヤルホテルで、9月16日、18日まで神戸オリエンタルホテルで。

★さんちか130店のエスプリがカード1枚、サインひとつでOKのAさんちかメンバーズカードが誕生。ローンやキャッシングサービスも利用できる便利さです。さんちか主催のカルチャースクールやトラベルプランも優先的に参加できる、いわば「ふれあいカード」です。タータンチェックの素敵なデザインで、手続はカンタン。お申し込みは、さんちか各店、またはAさんちかメンバーズカードサービスコーナーで9月1日よりご入会受付をいたします。10月1日よりご利用いただけますのでぜひご利用下さい。

★センター街入り口のユーハイムコンフェクトはマクドナルドハンバーガーのライセンシードとして8月20日開店。当社商品をお買い求めの折はさんちか店、そごう店、大丸店、阪急店をご利用下さい。

★御影ガーデンシティのリストランテアパレラでは、「第4回イタリア料理とカンツォーネを楽しむ会」を9月22日、6時半より開きます。女性に限りです。3、800円。詳しくは(078) 82

New Face



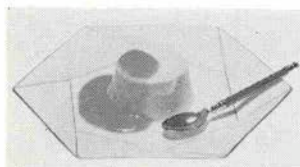
ゴンチャロフオリジナルセットA
(スパゲッティ・クロワッサン・
サラダ・コーラ) 800円。ヨー
グルト(オレンジ・メロン・パイ
ン・ストロベリー・ブルーベリー)
400円。☎(078)2911-
0040 営業時間10AM~10PM

が好評だ。
夕方は、若いOLや学生
で、48席が満席の賑わいだ
当店の新メニューとして
初めて特製のクロワッサン
を加えたオリジナルセット

景色がワイドに楽しめる。
面はガラス張りで、神戸の
景色がワイドに楽しめる。
主には金と白をほどこした店
内は明るく華やかなムード
で、コードベンダントがア
クセントになっている。側
面はガラス張りで、神戸の
景色がワイドに楽しめる。

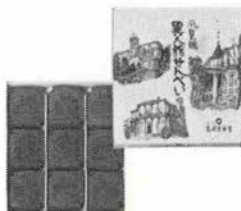
★ゴンチャロフオリジナル
セットはいかがですか
三宮ターミナルビル11F
スカイレ스토랑街のティ
ーパレス、ゴンチャロフを
ご紹介。

新製品コーナー



●ヨーロピアンデザート
ドンクから新発売のクリー
ムチーズをたっぷり使った
まろやかな味わいのフレッ
シュなムース。オレンジ味
のソースを上からたっぷり
とかけてお召し上がり下さ
い。
8個詰め合せ 2000円

●風見鶏異人館せんべい



神戸の代表的銘菓「瓦せんべい」
を手がけて100年の亀の井亀井堂
本家。風見鶏の館やうろこの家な
どをデザインした異人館せんべい
とポートピアのマーク入りのポー
トピア'81せんべいを発売中。ご
予約も承ります。☎331-0001
36枚箱入り 1,000円
54枚缶入り 1,500円

きたいですね」と大島智恵
さんは張り切っている。
ベニー毛皮店の方はセレ
クトされた高級毛皮のイメ
ージを高めていきたいとの
こと。8月22日〜27日に毛
皮サマーセールが開かれる
また、秋からは、毛皮の
ファッション情報や手入れ
の仕方、いろいろな知識を
盛り込んだ毛皮情報新聞も
隔月で発行予定。今まで知
らずに失敗していたあなた
もこれでひと安心。



格調高いドレス

★ハーディ・エイミスのド
レスで、英国風に
大丸前のつるや衣裳店で
は、英国王室デザイナー、
ハーディ・エイミスのドレ
スを揃えている。
7月29日にチャールズ皇
太子とレディダイアナの挙
式でにぎわった英国王室だ
が、王室のデザイナーとし
て、格調高いブリティッシ
ユ・ファッションのトップ
デザイナーの座を不動のも
のとしているハーディ・エ
イミス。伝統の香りともつ
とも新しいものを見事に調
和させたそのデザインは、
特にフォーマル・ウェアに
おいて、まさに他の追随を
許さぬ本物の素晴らしさがあ
る。これから挙式予定のお
二人、英国調のドレスでプ
リンセス気分をどうぞ。

ポケット ジャーナル



ス様式の美しい建築。



南庁舎の保存を訴える

★兵庫県芸術文化祭

今年も盛大に開かれる生活に根づいた芸術文化の振興をはかって兵庫県が主催する県芸術文化祭が、今年も以下の日程で開催される。日頃、芸術文化に親しむことの少ない方も、ぜひこの機会に各公演を楽しんでみてはいかが。

△文化庁移動芸術祭巡回公演▽
9月30日 演劇集団「円」、「まちがいつづき」、西脇市民会館
10月12日 札幌交響楽団、八鹿町市民会館
10月13日 札幌交響楽団、竜野市民会館

△文化庁青少年芸術劇場▽
8月25日 日本バレエ協会、「白鳥の湖」、加古川市民会館
11月14日 大阪フィルハーモニー交響楽団、北淡町富島小体育館

△県民創作劇場▽
9月12日 邦舞合同公演、神戸国際会議場メインホール
9月17日 洋舞合同公演、神戸文化ホール

△県民文芸大会▽
11月1日 川柳大会、神戸婦人会館
11月8日 俳句大会、丹波文化会館
11月23日 短歌大会、尼崎青少年創造劇場

その他、兵庫県こども音楽祭(8月25日、神戸文化ホール)、赤とんぼ音楽祭(10月11日、西宮市民会館)、県民茶会(10月7日、相楽園)などの催しが行なわれる。

また、別に県では兵庫県日本民謡祭を企画、出演者を公募し57年2月21日(予定は2月7日)に県民小劇場で開かれる予定である。

★中村元氏を迎えて県庁南庁舎を考えるシンポジウム
旧兵庫県庁舎(現県庁南庁舎)を解体移築をして跡地に生活文化センターを建設するという案に対し、知事宛に「現地保存要望書」を提出し運動を進めている

「神戸の建築を考える会」の主催で7月25日兵庫県教育会館で「シンポジウム旧兵庫県庁舎を通じて文化を考える」が開かれた。

旧兵庫県庁舎は明治35年に竣工したレンガ造石張り近世フランス・ルネッサン

設計者山口半六氏の孫にあたる東京大学名誉教授(東洋哲学)中村元氏、建築評論家長谷川堯氏を迎え、名古屋青年都市研究会、福岡県庁舎の保存再生を進める会も参加して建築家武田則明さんの司会で熱心に進められる。

★大森一樹監督「風の歌を聴け」神戸ロケ進む
「ヒポクラテスたち」でみごとな手腕をみせた若手映画監督大森一樹さんの新作「風の歌を聴け」が8月23日、三ノ宮駅前神戸ロケでクランク・インした。



上から大森、小林、真行寺

群像新人賞を受賞した村上春樹著の「風の歌を聴け」を大森さんが脚本化。シネマハウトと日本アートシアターギルドの提携作品でオールロケーションを行ない

この月間には、ちえおくれの子の親の会、施設職員会の会、学校教育にたずさわる先生の会の全国組織の主唱で、後援が総理府・厚生省・文部省などです。

誕生日
ありがとう
運動



精神薄弱者愛護月間
九月は、精神薄弱者愛護月間です。

この月間は、ちえおくれの子の親の会、施設職員会の会、学校教育にたずさわる先生の会の全国組織の主唱で、後援が総理府・厚生省・文部省などです。

特に、本年は国際障害者年ですから、内容のある月間にしたaimoです。

みなさんも、みなさんの地域社会で、職場で、学校で……ちえおくれの問題を、主体的に考えてください。

この月間にちなんで、誕生日ありがとう運動のことを簡略に説明いたします。

この運動は、誰にでも年に一度めぐってくる誕生日を機会に、ちえおくれの問題を正しく理解し、あたたかい思いやりの心を通わせようという啓発運動です。

具体的には誕生日のお祝いの中から意識的に百円節約して献金してください。各家庭でこの問題について、話し合ってください。

このことを手がかりとして、わたしたちが、ちえおくれの問題を主体的に受けとめると同時に、一人一人のかけがえのない生命について思いをめぐらせ、誕生日を意義にしよう、という運動です。

そのうち神戸、芦屋ロケが90%を超える。ロケは北野町、フラワーロード、元町王子動物園、港など神戸のあらゆる場所で行なわれ6月6日にアップの予定。

監督・脚本、大森一樹、主役のボクには小林薫、四本指の女には真行寺君枝、ジェイには坂田明が扮し、古尾雅人、狩場勉、西塚肇ら「ヒポクラテスたち」のメンバーも出演している。

★創作邦楽と舞踊の夕べ
静かな秋の夜を「創作邦楽と舞踊の夕べ」(10月8日午後6時30分神戸文化ホールA中)で過ごしませんか。



花井、大和、藤倉、若柳、芳村、加藤の熱演に期待

演目はまず大和楽組曲を神戸大和楽の集い「蘭の会」のメンバーが、名人芸を聴きたい人には三弦・芳村伊十七、杵屋勝国の二人が超ウルトラを演奏する「呼応」を。鳴物の真髓は、笛師藤倉推峰と鼓師藤倉呂悦が、知盛をイメージに演奏する「波の上」を。舞踊ファンには、モダンダンスの加藤きよ子と鳴物の会「[SAKURA]」を。

さらっとさわやかに仁村美津夫作詞、大和久満作曲の「江戸風流」を若柳吉金吾の創作で昨年の芸術祭賞を受けた藤倉推峰作曲の「深山の詩」を花柳芳恵一子が振付けて舞う。この充実したプログラムは、この秋、神戸の邦楽舞踊ファンには逃がせぬ舞台。神戸文化ホールの第33回グリーンステージで主催は神戸邦楽名撰会と神戸創作舞踊の会。

(お問合せは神戸文化ホール 3535、月刊神戸 33) 2246) 第1回秋の芸術祭参加
入場料は自由席で3000円。

★国立小劇場で
初の「須磨琴」出演

遠く平安の昔、在原行平が須磨の地へ配流された手すさびの一弦琴が、須磨寺(小池義人管長)の須磨琴保存会の手によって甦えり、この秋国立小劇場で、初のリサイタルを11月6日午後6時より開く運びとなった。

プログラム
は、須磨琴の由来や、創始者行平に捧げる「須磨」と

小池義人、小池美代子
の曲「漁火」「六段」「明石」などの古曲と、新作として、小池義人詞、大和久満曲の「須磨の四季」藤倉

推峰曲の「平家」などを演奏する。演出は美弥昭彦。兵庫県無形文化財の小池美代子と、三浦照子、山崎八重子他14名が参加。藤倉推峰(笛) 藤倉呂悦(鼓)が賛助出演。

王朝の清雅な一弦の響きが、東京砂漠に一石を投じること期待されている。
△¥3000▽
★八県立近代美術館▽
新館建設に着手

兵庫県立近代美術館(竊崎四郎館長)では8月15日から9月15日まで名品展(館蔵品展)が開かれていますが、同展終了とともに来年3月未まで休館になる。



県立近代美術館全景

これは新館の建設工事のためである。

新館は常設展示場として使われ、同館のコレクションの中核をなす金山平三コーナー、版画コーナー、地元作家コーナーが設けられこれにともない本館の1階

図書ガイド



海軍めしたき総決算
高橋 孟



好評だった「海軍めしたき物語」の続編。前作は孟さんの乗り込んだ船が魚雷に当たり九死に一生を得た話で終わっていましたが、この総決算ではその後のめしたき兵が敗戦で命からがら復員するまでを独自のユーモラスな筆致で描いている。おかしさの中にも戦争を憎む孟さんの執念がはの見える。近頃防衛力増強のオクターブで高い世相をチャクリとさす。挿入されたさし絵が当時の風俗を描いて楽しい。(750円・新潮社)

兵庫の伝説

有井基・編のさきジョー・絵



神戸新聞に豊協共済PRシリーズとして掲載された「兵庫の伝説」の中から、おたりう柳、矢田の唐田儀太など珠玉の14篇を抜粋した小冊子。庶民の悩む・苦しむ・笑うなど情念が一語一語に脈うっている。ふるさと兵庫がはぐくんできた民衆文化の遺産を守ろうとする編者たちの願いが行间に漂っている。

(県共済農業協同組合連合会)

は彫刻の常設コーナー、2階は企画展の会場となる。

同美術館は昨年10月に開館10周年を迎えたが、内外の近代彫刻と近代版画のコレクションはその質量ともに西日本ではずい一で、その系統立った収集は海外でも定評がある。

新館の誕生によって、これらの館蔵品が常に見られることになり、完成が待たれる。

□兵庫県立近代美術館／灘区原田通3-8-30 電話8011591

★広中平祐氏を招いて「砂田重民と婦人の集い」

子ども家庭教育をみんで考えよう、と新政砂田



右は砂田重民、左は広中平祐

会の主催で、7月11日生田神社会館にて「砂田重民と婦人の集い」が開かれた。

講師にハーバード大学教授、授広中平祐氏を招き「私の家庭教育」という題で講演が催され、自由でスマートかつユニークな広中家の模様をまじえての講演に、満員の場内熱心に聞き入っていた。そのあと広中・砂田

花時計



井植記念館のこと

塩屋のジエイムス山に井植記念館がある。この記念館はあまり一般には知られていないが、財団法人、井植記念会の拠点である。

去る、7月16日、大阪のホテル・プラザで「故井植歳男をしのぶ会」が13回忌を記念して、ひら

かれた。現在の三洋電機の創業者であり、超大型経営者であった、井植歳男氏はまた、すぐれた創造者であり、アイディアの持主であった。

豪放で賑やかなことが好きな人でもあった。

この集いに松下幸之助氏も出席され挨拶のなかで「いま歳男君が達者で松下電器で仕事をしてくれたら、松下電器は現在の数倍の規模になっていただろう。現在、三洋電機が健在で、これはこれで喜ばしいことであ

両氏の「家庭教育の重要性」についての対談があり、ユーモアたっぷりの和やかな二人の会話で時間がたつのも忘れるほど。約千人が参加、有意義な企画だった。

★但馬の観光を再発見しよう

「但馬の観光百選」に応募を海と山と温泉、但馬は自然の美しい観光資源に恵まれた土地である。この但馬を見なおすために但馬観光連盟が「但馬の観光百選」の選定事業を行なう。風景・名勝から歴史的文物、特産品にいたるまで一般公募を参考にして有識者が構成した選考委員会が決定する。ぜひ、あなたも素敵な「たじま」を一緒に選んでください。

応募要綱／はがきに候補名、所在地推薦理由を明記し9月30日までに送付してください。抽選で五百名に但馬の特産品を贈呈します。応募先／豊岡市中央町二一四 但馬観光連盟

る」と述べられたが、つまり、それ程のスケールで仕事が出来た人だという証言である。

井植歳男氏は亡くなるとき、これを社会に使ってほしいと私財10億円を寄贈した。井植記念会がそれである。井植文化賞をはじめ教育、福祉などの活動援助が行われて、兵庫県文化づくりに大きく貢献している。

井植歳男氏の遺徳はいまも高く高く輝やいている。

KOBE POST

★コウベはいま、女性時代——と田辺聖子さんの神戸を舞台に描いたサンデー毎日連載作品の「長篇ス」と空想」が「田辺聖子長篇全集」17—全18巻(第2回本編)1800として、文芸春秋社より8月初旬より発売中。モデルとおぼしき神戸の人々も多数登場。神戸の女性必見の書でアリマス。

★元町3丁目の海文堂書店(島田誠社長)が、新築工事にとりかかれました。新店舗は12月15日オープン。

★簡井康隆さんの傑作短編集「エロチック街道」が新潮社より9月刊行予定。8月9日はジャズ大名セッション「ザ・ウチアゲ」を山下洋輔、坂田明、中村誠一、タモリらと日比谷野外音楽堂で共演。11月7日8日には神戸文化ホール(中)で「三月ウサギ」が上演されます。乞御期待。

★陳舜臣さんの「神戸ものがたり」が、平凡社から発売中。980円。既刊「神戸という街」にさらに新しい神戸の顔を描き、カラー写真は子息の陳立人さんが。カットはお嬢さんの陳幼芳さん。地獄のイラストは橋昭三さんです。

★マンガ家丘あつしさんのイラストが第1117回東京都宝くじ(レジャークイーン100)のくじ券に、海底の人魚と、スキューバダイビングの男の子の海中デート風景。

★(株)ナクト・アトリエの立巻長三さんは、K.F.S.の講師としておなじみですが、このほど「80年代ファッション・トレンドのつかみ方」サブタイトル「服装史に学ぶ流行予測的技法」がビジネス社出版から刊行されました。

★「満」6、7月号は赤尾兜子追悼号。今は亡き赤尾さんの遺志を受け継ぎ夫人の赤尾恵以さん主宰、和田悟朗さんを遺者として新スタッフで発行します。

〒656神戸市東灘区御影町山手1丁目13ノ4 電話(078)0760。力作の追悼号は1500円。

●書記長に中島氏が新任、本年度は17名の理事で。



理事改選も無事終了し、乾杯！ KFSは今年もハリキッテガンバルゾー！

北野町は異人館通りのレストランヒルハウスで7月17日、7時半より年に一度の大総会が開かれた。この夜も猛暑で、皆冷たいビールを横目に、理事改選（この結果、19名の理事が17名に減りました）が催された。今まで張さんには会計と書記の兼任と負担が重かったため、これを機に、書記は中島氏と崔さんが新しく決まりました。他は満場一致で再選されました。

会長／柿本雅司／伸和スタイル㈱
副会長／大内信行／㈱神戸マルダイ
田中謙司／服飾デザイナー
荒津正美／㈱神戸ドレス
会計／米田博司／市立福祉センター
張恵美／エミ洋装店
書記／中島正義／紳士服デザイナー

崔雅琴／ブティックコーシン
理事／市野木江充子／市野木ニッティングスタジオ
兼古啓嗣／㈱神戸風月堂

清谷泰夫／ハバリ・シューズ工業所

栗山早苗／アトリエサナエ

小泉美喜子／旬月刊神戸っ子

西條幹男／服飾ミロ

佐藤良子／洋装店アンド&アポロ

横濱恵美子／洋装エミ

渡辺三船／レディスワタナベ

皆さん今年もメイク・バイ頑張ってください！

★新会員紹介

藤井美智子／服飾教室ミチコ 主宰

七月の「神戸っ子」KORE FASHION SPOTに御紹介頂いた、岡本在住の「服飾教室ミチコ」です。伊東式のメカニズムを駆使し、新しい技術と、古い手作りの良さを生かして、本格派を目指し、オーダーと教室の二本立てで、頑張っています。音楽の道を指す子供達と、それぞれにハモニーを大切に願っています。



KFSに入会させて頂き、センスのレベルアップをと、張切っております。よろしくお願い申し上げます。

東灘区本山北町5-13-11
電話 431-8051

●9月マンスリーサロン

「明日からできる専門店の販促活動」

日時／9月18日（金）午後7時より

ところ／センタープラザ16F中小企業会館



講師／中田幸子
ハトリザ開発部長



中田幸子氏
会費／¥1000円
ハトリザ開発部長

●10月ファッション一般公開講座

「夏のファッションの動向について」

日時／10月17日（土）

午後6時30分開演

ところ／センタープラザ西館

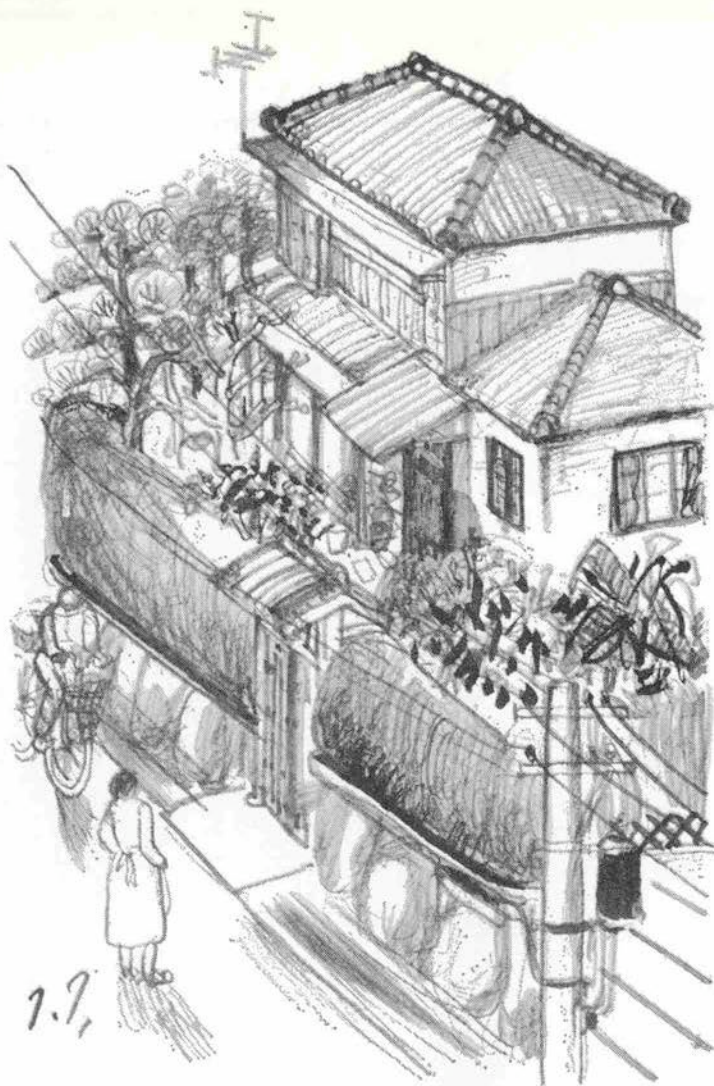
講師／立尾長三

ハトリエナクト
会費／¥2000円

れんさい小説(2)

一男一女

桜井利枝
絵 / 辻 司



前号のあらすじ

石津まちは四年前に夫を亡くし一人暮らし。和彦、悦子の二人の子も既に結婚して独立。ある日偶然、息子の和彦が学生時代に付き合っていた田中涼子に再会する。息子の交際になだ一度だけ口を出し、交際をやめさせたその相手に何となく好ましい印象を受ける

まちは現在住まっている家は、亡夫の父親が昭和のはじめに建てたもので、約五十五年の歳月を歴ている、延べ四十坪ほどの木造二階建てであるが、周辺で家の新築が目立つ中にあるのは、屋根瓦の色などにも蒼然とした趣があらわれはじめている。しかし軒の樋や壁や腰

板、それに門の格子戸や窓の戸袋等、傷んだところはきちんと補修されてあるので、老朽したという感じはなく、むしろ住人のつましい性格や丹念な神経が、外からも見てとれるのである。

まち子の夫は、裕福とはいえなかった父親が苦勞をして建てた家を大切に、専門の職人の手にかけるまでもないような繕い仕事は、役所の休みの日に、材料を買って来て自分の手でなおした。はじめはそういう仕事を決して好きではなかった彼も、四十を過ぎた頃から、日曜大工を自分の趣味だと他人にも言うようになった。

「自分の先が見えてくると、マイホーム亭主にならざるを得ないものかね」と、

いくぶん自嘲を交えたような苦笑を、時々はまち子に向けることがあった。自分の先とは、漠然と人生全般を見わたしてのことか、それとも役所での昇進の限界を自覚したという意味か、まち子にははっきりとは解らなかったが、わざと茶化すように

「そりや、不惑の年ですもの」

と言つて笑つた。

六十才の誕生日を数日の先に残して、夫が心臓発作で急逝してから、大風が吹いたり長雨が止まない夜などには、まち子は夫に先立たれた不安が、骨の髄にまで達するような心地がするのであった。屋根瓦が吹き飛んだのではないか、壁が剥げ落ちてはいないかと気が気ではない。その揚句には、建物が一時に崩潰してその下敷きになりそうな、被害妄想におそわれることもあった。

そういう不安も、和彦が家にいたなら半減される筈であると思うと、鉄筋コンクリート造りの頑丈なマンションで、安閑とした眠りをむさぼっている我が息子に、無性に腹立たしさを覚えるのであった。かと言って、夜中に電話をして、不安を訴えるようなまち子ではない。

明くる朝は、おそるおそる表と裏から、建物に破損はなかったか点検をする。夫が長年そうしていたことを踏襲することによって、彼女は何かの安堵を取り戻す

のである。幸いこれまでは、新しく傷んだ箇所も見当つてはいない、からではあるが……。

その気になれば、まち子と息子夫婦が同居できないほど手狭な家ではないので、結婚話がまとまるまで、彼女は和彦との別居生活を本気で考えたことはなかった。もちろん一般論として、若い人と同居してごたごた悶着をおこすよりは、経済的に可能なら、別居する方がお互いに気が楽であろうと、考えたこともあれば人に話もした。しかしどうしてそのような一般論を、安易に自分の本心の考えであるかのように錯覚していたのか、そのところは彼女にも曖昧であるが、娘の両親から将来の遺産相続分として、マンション一戸を若夫婦に提供したいと申出られた時、一般論としての当然さが、すんなりまち子の頭の中を素通りしてしまったのである。

「大変結構なお話で、息子も仕合せだと思いますわ」と彼女は承諾した。それが和彦の仕合せであったかどうかは別にして、自分の家を持つことが、現代のサラリーマンにとっては、生涯をかけた大事業であることを考えれば、まんざら悪い話でなかったことだけは確かである。

「昨夜は凄いい風だったけど、家の方はどうもなかった」という電話を一本よこせば、まち子は息子の仕合せを妬むほど、野暮でもわからず屋でもないのである。しかし別居してから三年の間に、そのような電話が架かったことは、ついぞなかったのである。それも無理からぬことで、鉄筋コンクリート建ての高層マンションと古い木造とは、風雨の感じ具合はまるで比べものにはならない。

別居を快諾したことは、まち子の迂闊さもさることながら、意地も多少はあり、それに何と言っても、彼女が一度は自由な生活をしてみたいと思いつづけていた、長年の願望のしからしむところでもあったのである。

その結果が、月一回のデパート歩きと、年に一度の婦人会の旅行なのである。これくらいなら夫の在世中も可

能だったわけで、むしろ当時の方が、家族といっしょに物見遊山に出かける機会も多かったくらいである。

まち子はつくづく情なく思うことがあった。あんなに欲していた自由とは何だったのかと、改めて自分に問い直してみる。

(でも自由にはお金がかかる。恋愛をするにも、この年令では無一文では相手にされないだろうし……)

彼女の描く恋愛の相手は、自分より少なくとも五ツか六ツ若くなければ困るのである。老人同士のお茶飲み友だちというような、むさくるしい関係を彼女は好まない。若い恋人を持つなど、今のまち子には夢でしかないが、所詮恋とは夢を見ているようなものであると、彼女は考えている。

恋はさておき、お金は少しでも多くあればよいものである。それは心の余裕にもつながる。彼女は和彦が別居して一年くらい経ってから、応接間を週に一度、ピアノ教室として貸している。音楽大学を卒業したばかりの親戚の娘が教師であるから、謝礼も先方ませで、それが高いのやら安いのやら、まち子には解らない。

さいわい生徒の評判はいいようで、通ってくる子供の数もだんだんふえている。稽古日を別に一日つくらなければならぬ日が、そのうちやって来そうな按配で、その娘は張り切っている。

しかしまち子は、これ以上はご免だと思っている。ピアノの音は、悦子も小さい頃稽古をしていたので、苦にはならないつもりだったが、教室となるとまるで違う。それに週に二回にもなれば、今は黙認している隣近所から、苦情が出ることも予想されるのである。

稽古が済むのは夜八時頃で、教師の娘に、まち子は飲物と菓子を出してやる。娘は幼い頃からずっとピアノを続けているせいか、少し猫背である。そろそろ適令期であるが、結婚をしてもこの仕事を続けたいと言っている。大人しい性格だが、自分の生活をしっかりした目で見て

いるところは、まち子をいつも感心させるのである。

話題も途切れがちになり、娘は使った食器を洗いに台所へ立とうとするのを、まち子が押し止めている時、玄関の戸の開く音がした。

「誰れかしら、今頃」

二畳ほどの玄関の間へまち子が出て行くと、式台をさがりかけた和彦が、ぬっと彼女の前に立った。

「まあ、びっくりさせないでよ」

「し、ば、ら、く」

彼は母親に対する照れ臭さを、そのような言いまわしで逃がっている。

帰り支度をしている娘を、車で送ってあげるからと、無理にソファに坐らせて、その横に和彦が腰を沈めた。

「話って、何よ」

まち子の方から連絡することになっていたものを、いきなり勝手にやって来て、いささか尊大ぶった物言いをする息子に、彼女は腹を立てた。そ知らぬ顔をして台所へ立ち、お茶の用意をする。

「どう、兄さんお元気」

高校生の頃まで往き来のあった、娘の兄の消息をたずねる和彦に

「ええ、元気ですわ」

とこたえる娘の声が、かすかな羞じらいを含んでいる。そういう年頃というものを、何とも微笑ましいとまち子は思った。

「田中涼子に会ったんだって」

彼女が熱いコーヒをテーブルに置くのを待って、和彦はたずねた。電話をした時の手ごたえとは異なる彼の視線を、まち子は押除けるような目で見返した。

「やっぱり関心があるんじゃないの」

それには応えようとせず、彼は横の娘に

「変な母親でしよう、うちのおふくろさんな。いまさら初恋の女性を合わせようというんだから：君、どう思う」ともかけてゆく。娘は怪訝そうに目を丸め、まち子

の顔を見る。

「薄気味が悪いから、少し予備知識をつけておこうと思
って寄ったんだよ」

笑いながら卓上ライターを取って、煙草に火をつける。
娘は自分がいては不都合なことがありそうだと気を利
かせたのか、和彦が止めるのもきかず

「バスで帰りますから」



と言っ、まち子に挨拶をしながら、足早やに部屋を
出て行つた。まち子は送らなかつた。

「言つとくけど、何も他意はないのよ。何となく、あの
ままにしたくはなかつたのよ。妙な気持かも知れないけ
ど、本当にそれだけなんだから」

「そう」

和彦は天井をむけて、ぶつと煙を吐いた。

「健ちゃん元気にしているの」

「うん、だんだんやんちゃになるよ。今日は佐久子と向
うの家へ行ってるんだよ。何だったかな、集まりがある
らしい。僕は忙がしいから断つたんだけど」

「じゃあ、迎えに行くんでしよう」

「いや、泊るって言つてた」

「へえ、呑気ねえ」

和彦はうすく笑う。そして続けざまに煙草をすつて
は、煙を上にかきあげる。煙草を喫いはじめた頃、ドー
ナツ型の煙を吐くのを悦子に見せて面白がつていたこと
を、まち子は思い出して苦笑した。こうしていると、和
彦がそこにいるという実感が、彼女には不思議なくらい
濃密に感じられる。ここ二カ月ほど顔を見せなかつた息
子に、あれこれ恨みがましい想像を働かせたことが、嘘
のように消えていた。

「他にも話があるって言つてたけど、何なの。本当はそ
のことが気になったから、寄つてみたんだよ。涼子さん
のいる前で、こっちの話題を持ち出す訳にもいかないで
しょう」

「あ、そのことね」

まち子にはその話を切り出す、気持の準備がまだ充分
ではなかつた。というの、和彦が結婚をする際ひそかに

「母さんとお婆さんになったら、この家へ帰つて来てね」
と頼んであり、和彦もそれを約束した。これは二人だ
けの、信頼関係の確認であつた筈である。息子の気持に
変りはないか、試してみたいと一度は思ったが、今はそ

んな疑念も失せていた。仕方なく、まるで別のことを言った。

「わたし、一人で自由なのに、その自由を少しも有効に使ってないと思うのよ。どうしたらいいかしらねえ」

少し甘えた声になっている。和彦は吹き出した。

「そんなこと、僕に聞いたって……」

とまた笑う。まち子は嫌な顔をした。

その彼が急に真顔になった。

「母さん、この家を売る気持はない」

「え？」「売るって、どういうことなの」

「どういうことって、売るんだよ、他人に」

まち子はきょとんととして、息子の顔を見ているだけである。

「そんなにびっくりするとは思わなかったな」

和彦は困ったように頭をかきむしった。彼の話によれば、最近マンションの或る住人が、何かの事情で住まいを手離さなければならなくなり、買手をさがしているというニュースを耳にした。母親の将来を考えれば、自分たちの近くへ移ってきたらいいと思うので、それを買取ってはどうだろうと言うのである。

「四LDKなので、この家よりは狭くなるけど、何と言っても丈夫だし機能的に出来ているから、こんな古い家と比べものにならない。佐久子も賛成しているんだよ」

まち子は答えない。しばらく沈黙がつづく。

和彦に先を越されたとまち子は思った。彼はかつての母親との約束を、こういう形で果たそうとしているのである。

「おじいさんがお建てになったこの家、お父さんが大事に住んでこられたことを、あなただってよく知ってるでしょう」

まち子は涙声になっていた。

「嫌ならいいんだよ」

和彦は怒るように言った。眉の間にこめられてある彼の焦燥を、まち子は目に留めた。

「佐久子さんが、この家へは帰らないと言ってるんですよ」

和彦は黙っている。

何時の間にか風が出ていた。窓ガラスがばたばたと音を立てている。まち子は立って行って雨戸を引いた。夜の冷気が、その時部屋に流れ込んだらしい。膝元からも寒さがのぼってくる。まだストーブの用意はなかった。

和彦は傍らの本箱の前に立って、本の背文字を調べているようなふりをしている。まち子がマンションへ運ぶことを許さなかった、彼の蔵書が並ぶ本箱である。息子の意識の中で、自分の家はここであると思ってもらいたかったからである。

まち子は悦子の申出を、虚懐に話しておくのかもしれないと思った。

「悦子がね、もし嫂さんがお母さんと暮すのが嫌なのだったら、私たちが同居してもいいって、言ってるのよ」すると和彦が驚いたように振り返った。

「誰も佐久子が嫌がっているって、言っていないじゃないですか」

強い調子であった。そして

「変な小姑根性を出しやがって」

と、その場にいらない妹を罵った。彼の昂奮の仕様に、まち子の方が面喰った。

「そう、それならいいのよ」

話はそこで途切れた格好になった。

来週になれば、仕事も比較的ひまだという和彦の都合に合わせて、四日後の夕方、田中涼子を家へ招ぶことになった。早速電話を架けると、涼子は家にいた。アパートの呼び出し電話で、廊下を走ってくる彼女の足音が聞えてきた。まち子は素早く和彦に受話器を渡した。

「あ、石津です。母がいきなり電話しろと言うもんで……」

……お元氣ですか……ああ……」

まち子は嬉しそうに、和彦のはにかんだ横顔を見ている。



ビジネスに、ショッピングに

三宮で一番便利な

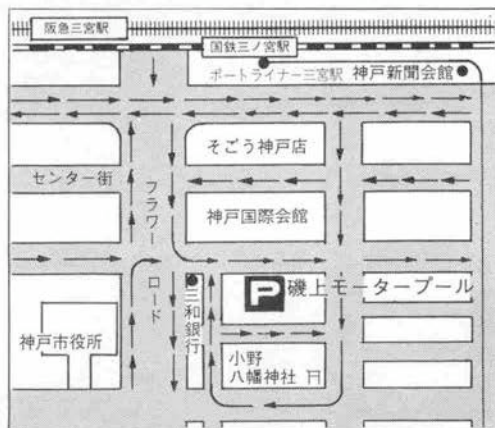
自走式立体モータープールです

● 収容台数 300台

● 月極駐車可

● 年中無休

(8:00AM~11:00PM)



磯上モータープール (神戸国際会館前) TEL (078) 251-7873